

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPOINT  
2016.5. VOL.30

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 頭脳循環を加速する戦略的ネットワーク推進プログラム 「エピゲノム情報制御機構の解明と臨床応用」キックオフ・シンポジウムを終えて

平成28年2月29日～3月1日に、頭脳循環を加速する戦略的ネットワーク推進プログラム「エピゲノム情報制御機構の解明と臨床応用」のキックオフ・シンポジウムが開催されました。桜山キャンパス附属病院病棟・中央診療棟3階大ホールにおいて17演題の講演、また4階第一会議室では22演題のポスター発表が行われましたが、予想以上に反響は大きく大学内のみならず県内外からの研究者、学生213名が参加されました。

本プログラムは、世界水準の国際共同研究を通じた双方向の人的交流、国際共同研究ネットワークの核となる優れた研究者の育成を目的とした日本学術振興会の主催するプログラムで、昨年9月に採択されました。今回のシンポジウムはこのプログラムのさきがけとして開催され、本学の医学研究科、薬学研究科、システム自然科学研究科との国際共同研究を予定するコペンハーゲン大学、カロリンスカ研究所、キュリー研究所、バレンシア大学、シンガポールゲノム研究所、およびペンシルバニア大学から研究者を招聘し、最先端のエピゲノム研究をご講演いただくとともに、実際に共同研究の場となる名古屋市立大学において、膝を突き合わせて研究打ち合わせを行うことができ大変有意義であったと考えます。本学からは医学研究科細胞生化学分野中西真教授、新生児・小児医学分野齋藤伸治教授、ウイルス学分野田中靖人教授、遺伝子制御学分野近藤豊教授、システム自然科学研究科生命情報系中山潤一教授が講演を行い活発な質疑応答が交わされました。また若手のポスター発表では会場内は熱気にあふれ、時間が足りなくなるほどの議論が行われました。本シンポジウムにより、名古屋市立大学発の“基礎から臨床応用までを目指したエピゲノム国際研究”の新たな第一歩が踏み出されたように感じました。

本キックオフ・シンポジウムの開催におきまして、多大なご支援をいただきました郡健二郎学長、今泉祐治副学長をはじめ、大学本部の方々、医学部事務の方々、さらにご参加下さいました皆様方に厚く御礼申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

文責:遺伝子制御学 教授 近藤 豊



### “瑞医の由来”

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPOINT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へ出発し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。

## 連携病院

### 一宮市立市民病院

当院は昭和11年5月に市立診療所として始まり、昭和14年5月には内科、小児科、外科、産婦人科など計7診療科、病床数28床の一宮市立市民病院として改組され当院の基礎が築かれました。現在では28診療科、病床数584床、医師数約160名、看護師数約700名など総勢約1200名の職員で、尾張西部医療圏の急性期医療を担う基幹病院となり、がん診療連携拠点病院、中核災害医療センター、地域周産期母子医療センター、救命救急センター、DMAT指定医療機関、基幹型臨床研修病院(内科・外科・小児科)、助産師看護師研修病院などの指定を受け地域医療に貢献しています。さらに、平成30年度には新棟が建設され、2階に化学療法を中心としたがん診療センター、3階にICU・ハイブリッド手術室・心臓カテーテル室、4階に結核病棟、5階に緩和ケア病棟が配置される予定です。

救命救急センターでは、1次から3次までの患者さんの受け入れを行っており、受け入れ件数は、救急搬送件数(時間内+時間外)が年間約6000件で、時間外には25000人近い患者さんがウォークインで受診されています。平日時間内では、救急指導医専門医とともに全診療科が協力して救急搬送患者さんの診療にあたっています。地域周産期母子医療センターでは、妊娠22週からの母胎搬送を受け入れ、平成27年の救急母体搬送は45件、分娩数は861件(帝王切開248件:28.8%)でした。NICU9床、GCU21床で院内出生・院外出生合わせて年間約300名の入院を受け入れています。

研修医・専攻医の指導は、上級医の指導と屋根瓦方式のハイブリッドで行われます。症例も多くとても魅力的な病院です。一宮駅周辺には素敵なお店がたくさんあって、アフター5(いや、アフター7かな)も楽しめます。研修先を検討されている方は、ぜひ一度見学に来てください。

一宮市立市民病院 産婦人科部長 佐々治紀



外観



エントランスホール



手術室(産婦人科)



4階スタッフステーション



産婦人科外来受付

## 教育

### 新カリキュラムスタート

国際認証カリキュラムに向け、カリキュラムが段階的に新しくなっています。

新M2カリキュラムでは、解剖学、生化学、生理学、免疫学などが12月までに終了し、1月からは新M3として病理学、細菌学、ウイルス学、薬理学などが開始、夏休みまでに基礎医学が終了、9月からの基礎自主研修に続き、翌1月からは新M4として臨床講義が始まります。

M2新カリの主な変更点は以下です。1. 解剖学実習が4月中旬から6月にかけて実施されます。2. 試験日程がカリキュラムに組み込まれています(直前の十分な自習時間を確保) 3. M2夏休みを短くし、実質の負担軽減に繋がりました(期間は他大学と同レベル) 4. 学術論文入門ユニットを9月以降に実施、より効率的学習となります。5. 本試で一発合格すれば、冬休みが1ヶ月以上あります。カリキュラムは常に改革が必要です。委員会では学生からの建設的な意見を求めています。

文責:カリキュラム委員 飛田秀樹(脳神経生理学 教授)

## 研究者紹介



Okuyama Toru

**奥山 徹**(おくやま とおる) 精神・認知・行動医学(病院准教授)、病院緩和ケア部  
専門：精神腫瘍学、コンサルテーション・リエゾン精神医学

私はがん医療における精神心理的ケアを専門としており、緩和ケアチームの一員として患者さんにケアを提供するとともに、ケアの充実に資するような研究を行っています。最近では、看護師を対象としたがん患者の精神心理的ケアに関する教育プログラムを開発し、その有用性を無作為化比較試験で検証しました。また、血液・腫瘍内科学教室と共同研究を行い、高齢がん患者において抗がん治療開始に関する意思決定能力障害の頻度が高いことを明らかにしたり、脆弱性を有する患者をスクリーニングする方法を開発したりしました。医療における精神心理的ケアの要請は高まっており、今後も臨床・研究・教育を通してそのような要請に応えていきたいと考えています。

近年の論文:Psychogeriatrics (in press), Journal of National Comprehensive Cancer Network 13: 1525-1531 (2015), PLoS One 10: e0136163 (2015), Japanese Journal of Clinical Oncology 45: 934-940 (2015), Psycho-oncology (Epub ahead of print) (2015)



Oguri Tomoko

**小栗 朋子**(おぐり ともこ) 環境労働衛生学(特任助教)  
専門：環境保健学、化学物質曝露評価、分析化学

環境化学物質がどの程度ヒトに取り込まれ、健康にどのような影響を与えるかについて、分析化学的手法を用いた研究を行っています。これまで、日本人が日常食を介して摂取する無機ヒ素の健康リスクに着目してきました。マーケットバスケット調査、陰膳調査、モデルによる推計等の結果から求めた無機ヒ素摂取量の平均値を国際的なリスク評価結果に照らしてみると、皮膚、肺、肝臓における発がんリスクは決して無視できるレベルではないことを報告しました。現在は、全国10万人の親子が参加する出生コホート研究であるエコチル調査をフィールドとして、環境化学物質が妊婦や小児の健康に与える影響の解明と、微量元素の曝露評価手法に関する研究に日々邁進中です。

近年の論文:Journal of Environmental Science and Health, Part A, 51, 463-466 (2016). 日本衛生学会誌, 69, 177-186 (2014). Archives of Environmental Contamination and Toxicology, 66, 100-112 (2014). Food and Chemical Toxicology, 50, 2663-2667 (2012). Biomedical Research on Trace Elements, 23, 33-39 (2012).



Kato Daisuke

**加藤 大輔**(かとう だいすけ) 神経内科学(助教)  
専門：認知症、神経科学

神経内科専門医としての臨床経験を積む中で、アルツハイマー型認知症の症状発現機構や病態解明に興味を抱いたため、神経内科教室で研究がすすめられていた記憶に関連する因子である海馬由来コリン作動性神経刺激因子とその前駆体タンパク質(HCNP/HCNP-pp)に関する研究に従事しております。また、日々時間や場所などの一時的な刺激の変化だけでも認知機能を含む臨床症状が変動することを痛感していたため、個々の神経細胞だけでなく情報処理を行う神経回路の挙動に対し次第に興味を抱くようになりました。そこで、生理学研究所の特別協力研究員にも従事し、白質を含む神経回路の観点から神経変性疾患の病態を解明しようと研究に取り組んでおります。

近年の論文:Neuroscience Letters 597: 1-6 (2015), Neuroscience Letters 535: 122-127 (2013), Neuroscience Letters 517(2): 92-97 (2012) Cell Transplantation 21(10): 2159-2169 (2012), Brain Research 1355: 180-188 (2010)



Kojima Masayo

**小嶋 雅代**(こじま まさよ) 医学・医療教育学(准教授)  
専門：精神疫学、医療コミュニケーション

心の健康と身体の健康との関連を疫学的に分析し、有効な介入点を提案する研究を行っています。最近、関節リウマチ患者さんを対象とした疫学調査や診療ガイドラインの作成に関わる一方、フォーカスグループなどの質的研究にも取り組み、数値にできない患者さんの思いを医療者に伝え、より良い医療コミュニケーションの在り方について考える機会を大切にしています。昨年9月より、公衆衛生学分野から医学・医療教育学分野に異動し、これまでに培った研究手法を用いて、医学教育の効果検証も行っていきたいと考えています。今後は、国際基準に基づく医学教育認証受審に向け、微力ながら本学の医学教育の一層の充実に貢献できればと思います。

近年の論文:Modern Rheumatology. 2016;26(2):175-9, International Journal of Rheumatic Diseases. 2015 [Epub ahead of print], Rheumatology. 2015;54(1):113-20. Arthritis Care & Research. 2014;66(5):679-86. Biopsychosomatic Medicine.2012 ;17;6(1):21.

## 新任教授のご紹介

## 脳神経科学分野— 間瀬 光人 教授

このたび平成28年1月1日付をもちまして名古屋市立大学脳神経外科第3代教授を拝命いたしました。謹んでご挨拶申し上げます。

私の出身は名古屋で、小学校から大学院まで全て名古屋市立で教育を受けました。大学院では虚血性脳浮腫と頭蓋内圧脈波形に関する研究で学位を取得しています。その流れで現在も水頭症の病態と髄液生理学の研究を続けています。

臨床では脳血管障害手術が専門です。脳動脈瘤であれば開頭クリッピング術やバイパス術と脳血管内治療(カテーテル手術)を適切に選択あるいは組み合わせ治療を行い(ハイブリッド治療)、成績向上に努めています。もう一つの専門は神経内視鏡手術です。間脳下垂体病変に対する経鼻アプローチ、水頭症に対する第3脳室底開放術などです。神経内視鏡の適応はまだ限られていますが、機器の進歩はめざましく、すぐ近い将来に顕微鏡にとって代わると思われまます。4月から医学部に開設されるサージカルトレーニングセンターを活用させていただき、安全な神経内視鏡手術の普及に携わっていくつもりです。

臨床・研究両面において世界に向けてプレゼンスを示せるようなバイタリティーにあふれた教室運営を行い、人材を育成し、大学・病院に貢献したいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。



間瀬 光人 教授

## 名誉教授のご紹介

## 薬理学分野— 伊藤 猛雄 名誉教授

伊藤猛雄先生は、九州大学医学研究科薬理学講座を主催されていた栗山熙教授のもとで大学院博士課程を修了し、同大医学部助手、講師として血管平滑筋の興奮収縮連関に関する薬理学的研究に従事されました。米国マサチューセッツ大学医学部生理学教室(Fay教授)留学中には、単離平滑筋細胞への蛋白質のマイクロインジェクション法を確立されるなど、平滑筋収縮におけるミオシンリン酸化の生理的役割の解明に寄与され、平成6年4月名古屋市立大学医学部薬理学教授としてご着任されました。

教授就任後は、血管平滑筋や内皮細胞の細胞内Ca濃度測定や膜電位および張力測定法、さらに共焦点レーザー顕微鏡の導入などにより、循環器疾患での血管細胞の機能障害における活性酸素の役割に関する研究など、臨床知見に基づいた基礎研究を構築され、多くの学位取得者を輩出されました。学部学生教育にも真摯に取り組まれる一方、他大学との共同研究にも尽力され、多くの業績を残されています。日本薬理学会、日本平滑筋学会、日本NO学会の評議員ならびに学術雑誌のレフェリーも多数お勤めになり、大学内では川澄分館館長として図書館の運営改革に取り組まれるなど、学内外で貢献されました。

今後も益々のご活躍とご健康を祈念致します。

文責 薬理学 河辺眞由美



伊藤 猛雄 名誉教授

# 02 時の人 People in the news

## OBのご紹介

### 地域医療教育学分野— 大原 弘隆 教授

2016年4月1日付けで名古屋市病院局長を拝命いたしました。私は1984年名古屋市立大学を卒業後、旧第一内科に入局し、名古屋市立緑市民病院内科、岐阜県立多治見病院消化器内科での勤務を経て、1993年に母校に戻りました。大学では、膵臓・胆道領域を中心に臨床的研究を行い、慢性膵炎、自己免疫性膵炎およびIgG4関連疾患等の診断基準やガイドラインの作成に努めてきました。

2009年には地域医療教育学の教授に着任し、総合内科・総合診療科を担当してきました。2013年からは、文科省の事業「なごやかモデル」では在宅医療を含む地域包括ケアに関する教育・研究を行っています。その後、救命救急センター長、副病院長を務め、救急・災害医療についても研鑽を積むことができました。

病院局が運営する西部医療センターは2010年に新築され、東部医療センターは2015年に救急・外来棟がオープンし、新病棟の整備も予定されています。今後、両センターが大学および大学病院との連携を一層強化し、3病院1800床を舞台とした魅力ある臨床研修、専門医研修、臨床研究が行えるよう努めてまいりますので、皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。



大原 弘隆 教授

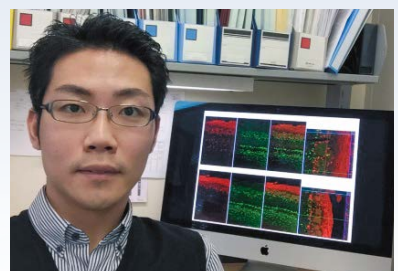
## 若手期待の星★

### 再生医学分野— 澤田 雅人 先生

「私たちの脳がどのようにつくられ、機能するのか?」という問いを研究することは、脳を理解する上で極めて重要なテーマです。私の研究目標はこの問いを明らかにすることです。

最近の研究で、成体の脳でも神経幹細胞から新生ニューロンが産生され、生理機能のみならず脳傷害後の神経再生にも重要な役割を果たしていることが分かってきました。私は、様々なイメージング技術や分子生物学的手法、光遺伝学的手法、行動学的評価などを駆使して、新生ニューロンの移動・成熟メカニズムの解明を目指しています。さらに、自らの研究成果を応用することで、難治性脳疾患の再生医療へ貢献したいと考えています。

近年激化する研究競争では、常に新たなブレイクスルーが求められます。そのためには国内外の異分野の研究者と積極的に意見交換し、共同研究によって質の高い成果を発信することが必要です。本年度、医学・薬学・システム自然科学研究科の若手研究者を中心として、月1回のランチョンセミナーを企画中です。詳細は決まり次第ポスター等でお知らせ致します。学生や教員の皆様には、研究科の壁を超えて研究議論にご参加頂き、名市大発の画期的な研究成果の発信に役立てていただければ幸いです。



澤田 雅人 先生



Dr.Garcia-Verdugo研究室(スペイン)を訪問し、共同研究の打ち合わせ

### 最新の糖尿病治療

内分泌糖尿病内科では  
外来で約500人の糖尿病患者様を治療しています。  
今回は最新の糖尿病治療についてご紹介します。

#### 1. 多様な作用機序の経口剤

現在、糖尿病経口剤にはSU薬、グリノド、 $\alpha$ グルコシダーゼ阻害薬、メホルミン、チアゾリジン、DPP-4阻害薬、SGLT2阻害薬と計7種類の異なった作用機序の薬剤があります。中でも特に近年登場したDPP-4阻害薬とSGLT2阻害薬は画期的な作用から糖尿病の治療を大きく変換しました。DPP-4阻害薬は体内のGLP-1というホルモンを上昇させ、その結果インスリンの分泌を促進しグルカゴンの分泌を抑制します。血糖値に合わせて効果を発現してくれるため低血糖が起こりにくいことや、副作用が少ないことから幅広く使われています。一方、SGLT2阻害薬は腎臓の尿管での糖の再吸収を抑制し、尿中への糖の排泄量を増やします。その結果、肥満患者の体重が減るといったメリットがあります。一方、脱水や尿路感染症などの副作用があるので適正使用が推奨されています。これらの薬剤を併用して良好なコントロールを目指しています。



写真1

内分泌糖尿病内科一同

#### 2. 週1回製剤

糖尿病治療薬にも週1回製剤がDPP-4阻害薬(内服薬)とGLP-1受容体作動薬(注射薬)に登場しました。発売前は他の薬剤が毎日なので一部の薬剤だけ週1回になることに疑問視する意見もありました。しかしながら、実際に使用されると、1剤でも毎日飲む薬剤が減ることは患者様にとって好ましいことであり、飲み忘れも少なく、血糖コントロールは改善するケースが多く見られました。また、自己注射薬のデバイスにも工夫がみられ、針も内蔵されておりあてて押すだけで簡単に注射できる注射器が登場しました。薬剤だけでなく、デバイスの進歩も投薬コンプライアンスの上昇に貢献しています。

#### 3. CGMとインスリンポンプ

CGMとはContinuous Glucose Monitoringの略で24時間連続して皮下の血糖値を測定する検査法です。親指大のセンサーと測定装置を腹部に装着し、最大7日間測定することが可能です。(写真2 CGM)結果はグラフ表示され、これまでにわからなかった夜間帯の血糖値や食間の連続した血糖値の変化を捉えることができ、血糖値管理の精度が格段に上がりました。外来でも可能ですが、同時に自己血糖測定器での測定が必須です。さらにはSAP(Sensor Augmented Pump)といって、インスリン注入ポンプと一体化した持続血糖測定装置も登場しました。(写真3 SAP)この測定器では、リアルタイムに血糖値を常時表示することが可能です。ただし、まだインスリン注入量と血糖測定値は連動していません。この領域の技術開発は目まぐるしく、両者が連動した人工膵臓のような治療機器が登場することも夢ではない時代となりました。

内分泌糖尿病内科では栄養士、薬剤師、看護師、検査技師、理学療養士らと協力してエビデンスに基づいた治療を行っています。また、糖尿病療養指導士というコメディカル向けの資格の取得をサポートしています。今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

文責 内分泌糖尿病内科 今枝憲郎



写真2

CGM(皮下血統持続測定器)



写真3 SAP

(センサー一体型インスリンポンプ)

### 学生生活

#### 基礎自主研修優秀賞(学会発表報告)

基礎自主研修発表会での優秀賞受賞者、彼らが学会発表する際の補助制度をご存知でしょうか？  
後援会からの補助金による医学部の制度です。入学時の後援会費が有効に使われています。ご父兄に感謝すると共に、学生の課外活動として今後より充実していく必要を感じています。受賞者の学会発表報告を掲載しました。

文責:脳神経生理学 教授 飛田秀樹

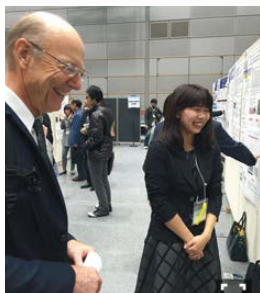
#### 医学部4年生 学会報告です!

この度、2014年度の基礎自主研修において行った研究の成果を、2016年3月に北海道札幌市で行われた第93回日本生理学会大会にて、「モルモット胃幽門前庭部緩電位の性質は大彎側と小彎側で違いがある」という演題でポスター発表する機会を頂きました。

自分の行った研究についてのディスカッションや、全国の先生方や学生による研究発表を聴けたことは非常に有意義な機会となりました。今後はそれらを通して得たことを活かしていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の学会発表にあたりご支援、ご協力いただいた細胞生理学の先生方に、この場を借りて深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

医学部4年 朝岡るう



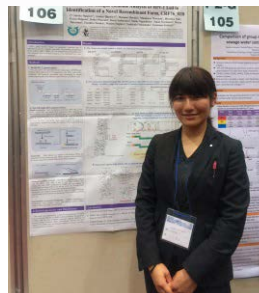
朝岡 るうさん

この度、2014年度の基礎自主研修において行った研究の成果を、2015年11月に福岡県で行われた第63回日本ウイルス学会学術集会にて、「Illumina MiSeqを用いたCRF01\_AEとサブタイプBによる新たなHIV-1組換え型流行株、CRF76\_01Bの解析」という演題で発表する機会をいただきました。

基礎自主研修を通じて、基礎医学研究の楽しさを学び、そして研究成果を論文と学会という形で発表できたことは、私にとって非常に貴重な経験となりました。今後も、この経験を活かして更に努力していきたいと考えています。

最後になりましたが、基礎自主研修を通じて多大なるご支援を賜りました多くの先生方に、この場を借りて深く感謝申し上げます。

医学部4年 小川慧子



小川 慧子さん

#### 川澄祭ライブ収益費17万円を日本赤十字社に寄付し感謝状

ライブは近年川澄祭が特に力を入れている企画です。今年により川澄祭らしさをと考え、初めてチャリティライブとして開催しました。献血バスと骨髄バンクと連携した企画を行うことで、輸血バスの来場者数も例年より大きく伸ばすことができました。

ライブ当日は多くの方にご来場いただき、お蔭様で収益金を日本赤十字社に寄付することもできました。これはお客様ならびにご支援いただいた先生方、職員の皆さま、運営に携わった実行委員や局員たちすべての方々の尽力の賜物です。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後も川澄祭でこのような企画を継続してまいりたい所存です。どうかこれからも温かいご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

第56回川澄祭ライブ局長 M5 森由希子

#### 桜山の懐かしいお店—第18回「さくとん」さん

桜山交差点角のトンカツ屋「さくとん」取材しました。店名は桜山に因んだもので、マスコットのブタは耳が桜になっています。カウンター8席の小さなお店ですが、お弁当のテイクアウトもできます。毎日大勢の名市大生が来て、テストの話など情報交換もしているそうです。一番人気はみそかつ定食(650円)。私が注文した上ロースかつ定食(850円)は数量限定で、厚さ1.5センチ以上もある柔らかいトンカツでした。店長さんは、名市大生を1000人以上知っているそうです。今後も名市大のため、安くて美味しいトンカツをつくり続けてください。

(再生医学分野教授 澤本和延)

Twitter公式アカウントもあります。

[https://twitter.com/saku\\_ton](https://twitter.com/saku_ton)

「瑞医」持参で  
唐揚げ一個サービス!

(6月30日まで)



さくとん 店長



### 医学教育等関係業務功労者表彰

私は医学部生化学教室に採用されて以来、これまで当研究室に在籍された多くの先生方のご指導の下、研究のお手伝いをさせて頂きました。また、採用当初から医学部学生実習の準備など生化学教育にも関わらせて頂きました。

この度このような賞を頂いたのも、今までご指導頂きました先生方やご協力頂いた研究室の方々のお陰と心より感謝しております。

これからも先生方の研究や生化学教育に貢献できるよう、業務に精進していきたいと思っております。

細胞生化学 山田千里



### 【医学振興】寄附金ご協力のお願い

本学では、優れた教育・研究・診療環境の整備・充実のため「名古屋市立大学振興基金」を設立し、広く皆様からの財政的ご支援をお願いしております。これまでに寄せられたご寄附により、昨年度は講義室の机・椅子を入れ替え、学生が授業に集中できる環境を整えさせていただきました。ご賛同くださった皆様には厚く御礼申し上げます。

皆様におかれましては、この基金の趣旨をご理解いただき、「市立大学振興基金(医学振興)」に格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



改修後の基礎教育棟講義室3

問い合わせ先 ご賛同いただける方にはご案内をお送りします。

名古屋市立大学医学部事務室 基金【医学振興】担当 TEL:052-853-8077(土・日・祝を除く9:00~17:00) FAX:052-843-0863

### 「医療・保健 学びなおし講座」が、 文部科学省「職業実践力育成プログラム」(BP) 制度に認定されました

「職業実践力育成プログラム」(BP) 制度とは、大学等におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大を目的として、社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムとして文部科学大臣が認定するものです。



詳細は文部科学省HPをご確認下さい。 [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/koutou/bp/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/bp/index.htm)

### ひとこと☆メッセージ募集!

本誌では、皆様からの一言メッセージを募集します!無沙汰している同級生に、恩師に…ワイワイ楽しいお便りお待ちしております。ほっと和む「名市大人のつぶやきコーナー」をみなさんと作りたいと思っております。

例えばこんな一言を、

研究者紹介に載った同期・先輩へ。「おまえも、がんばってるみたいやん。」  
 ごぶさたしている同窓生への近況を。「最近、腹が出てきました。」  
 新米医師のつぶやき、女性医師必見!ウチの家事両立法!「ここが手抜きポイント!」  
 などなど、必要事項を記入の上、葉書かe-mailで下記までお送りください。(注:次回掲載は9月号です)

1.一言メッセージ(30字以内) 2.卒業年度 3.お名前(ふりがな) \*匿名希望またはペンネームでの掲載をご希望の場合はその旨をお書きください。\*4.住所 5.電話番号またはE-mailアドレス

《受付》〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1 E-mail:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp  
 名古屋市立大学医学部広報誌「一言メッセージ」係宛

\*お送りいただいた個人情報については、お便りの採用に関する応募者への問い合わせ、確認以外の目的で使用いたしません\*

広報誌：瑞 医(ずい)

発行：名古屋市立大学大学院医学研究科・医学部  
 〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1  
 TEL(052)853-8077 FAX(052)842-0863

URL <http://www.nagoya-cu.ac.jp/>

※次号の発行は平成28年9月下旬発行予定です。[年3回 1月・5月・9月]

☐☐  
**我こそは  
 通信員!**

広報誌「瑞 医」へ最新の話題をお届けして下さるサポーター大募集!「今、当講座ではこんな若手が頑張っています!」など広報委員会へ取り上げてほしい話題を教えてください。教職員・学生、身分は問いません。我こそは、という方は、[igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp](mailto:igakujimu@sec.nagoya-cu.ac.jp) または医学部事務室 広報担当まで